

古宇利島に光ケーブルの早期導入を求める要請決議

スマートフォンの普及を受け、インターネット利用が当たり前になる中、村民の医療、福祉、教育などの住民サービス向上に向けては、情報インフラの整備は必須になっている。

また、沖縄県では、県内への入域観光客数の大幅な伸びを受け、2017年3月に2021年度に向けた観光の目標について、入域観光客数を1,000万人から1,200万人に、観光収入を1兆円から1兆1千億円に上方修正した。

その際に、国内観光客数は800万人と据え置き、外国人観光客数を200万人から400万人としている。

そんな中、2020年供用開始予定の本部港への大型クルーズ船寄港が決定しており、本村においても大幅な外国人観光客の増加が見込まれる。

中でも、県内においても重要な観光地となっている古宇利島へは現在の80万人程から更なる入域観光客数の増加、特に外国人観光客数は確実に伸びる事が予想される。

そのような状況の中、古宇利島への高速ブロードバンド環境の整備はインバウンド対策（多言語対応、Wi-Fi環境整備、ICTを活用したサービス向上）において必要不可欠なものである。

知事も「世界最高水準の観光リゾート地を目指して頑張っていきたい。」としている。

よって、観光立村を目指す今帰仁村においても、「美ら海水族館」と並び、北部の観光名所である古宇利島への高速ブロードバンド環境整備事業は必須であると考え、光ケーブルの早期導入を強く求める。

以上決議する。

平成30年6月22日

沖縄県国頭郡今帰仁村議会

宛先 沖縄県知事 翁長 雄志 殿